

A班：自然・子ども

アイデアカード

実現するためのアイデア（付箋）

	誰が	誰に	何を	どんな風に（頻度・年に●回）	どんな風に（1回に●人）	どこで	いつ（季節）	いつ（時間帯）	もの	ひと	仕組み・工夫	ハードル・課題
1	高専の学生	小・中学生	ロボットのプログラムと防災時のレスキューなど、自分でロボットのプログラミングをする	年に4回	20～40人くらい	センター	通年	休日の朝	・自転車練習（シクロクロス、マウンテンバイク→大会できるとよい）			
2	彦根地方気象台の職員	中・高校生	暴風・台風・豪雨体験、水害時の水の中での移動方法など	年に4回	20人くらい	センター、川	通年	-		国土交通省職員、気象台職員、NPO、大学、企業		
3	企業・センター職員	地域住民など	防災教育（テント設置・非常食体験・災害体験・野洲川の歴史（水害）	数回	20人くらい	センター敷地	通年	-				
4	-	-	ヘリポートを少し高く設計して、周囲い傾斜をつけてスケートボードできるようにする			ヘリポート周辺	通年	平日の昼・休日の昼				
5	自然インストラクター（森林・鳥・昆虫・魚）、県立大自然環境科の学生	子どもたちに	自然に親しむ、ふれあい、発見がある、体験もある（場所・機会の提供）、春はたけのこ狩り、水辺や小川での体験	通年（表示板等で補助）、イベント的（年に3回）	30～50人くらい	自然の森、野洲川の川辺または多自然魚道	初夏（たけのこ）、夏（水辺）、秋（観察会）、通年	平日の昼・休日の昼		博物館、学生（近隣の大学の大学生・高校生）、NPO、教員	補助金、大学連携	イベント等をリードしてくれる人材、経費（助成金の申請など）
6	NPO、企業	小・中学生	植物、魚、昆虫、動物などの生態について、標本づくり、水との関わり、環境調査など、地域の研究	年に2～3回	20人くらい	野洲川、センター	春・秋	平日の朝、夜・休日の昼	アミ、双眼鏡、PACテスト、標本セット、図鑑、解剖セット			
7	自然の森、河辺の森を整備している団体	中学生・高校生	森や河辺の整備を職場体験として中・高校生に体験してもらう（中学生がスタッフとして、小学生向けに体験プログラムを実施するなど）	年に1回	10人くらい	自然の森、野洲川の河辺	通年	平日の昼・休日の昼				
8	やす線のひろばさんと市民活動団体の子育てサークル	親子・子ども	どんぐり広場の自然散策、夜にカブトムシ観察会、セミの羽化観察など	年に2～3回	15人くらい	どんぐり広場・森林ゾーン	春・秋・冬（夏は蚊がいるからNG?）	休日の昼・夜				
9	講師を呼んで	子ども	夜の星空探検+キャンプ	-	20人くらい	ミニ三上山、芝生広場	通年	休日の夜	プロジェクター			夜間の施設管理
10	子育て団体（やりたい人が）	親子向け	上映会	-	50人くらい	水防センター	-	休日の朝・昼				
11	各スポーツの団体さん？	子ども	スポーツ体験	-	10人くらい	スポーツ施設、グラウンド	-	平日の朝、休日の朝・昼				
12	オモロー授業	小学生	オモロー授業	年に2回	-	水防センター	-	休日の朝・昼		オモロー授業のスキームを使って講師を呼ぶ	マッチング（やりたい人はいる）	仲間づくり（人材（
13	助産師さん	親子（赤ちゃん）	子育て講座、ベビーマッサージ	-	10人くらい	水防センター	-	平日の朝・昼、休日の朝・昼		助産師さんや子育て関連の講師		
14	講師を呼んで	小学生	手作りワークショップ	-	10人くらい	作るものによって室内or屋外	通年	平日の朝・休日の朝・昼		講師の手配		

B班：スポーツ・アクティビティ
アイデアカード

実現するためのアイデア（付箋）												
誰が	誰に	何を	どんな風に （頻度・年に●回）	どんな風に （1回に●人）	どこで	いつ （季節）	いつ （時間帯）	もの	ひと	仕組み・工夫	ハードル・課題	その他
1	地元のサッカー協会	子どもたちに	ロボットのプログラムと防災時のレスキューなど、 自分でロボットのプログラミングをする	週に1〜2回	？	土取場（芝舗装）	通年	？	・自転車練習（シクロクロス、マウンテンバイク→大会できるとよい）	地元のサッカー協会が活動の拠 点として維持管理する	5年後、10年後の維持管理に課題がある	
2	？・高専生	？	暴風・台風・豪雨体験、水害時の水の中での移動方 法など	？	？	土取場	？	？				
3	？	地域住民など	音楽フェスティバル	年に1回？	大勢	土取場（芝舗 装）・水辺広場	？	？	・コンテナ式のシャワー・トイレなど移動式で柔軟に使える ・移動式のコートにし、多目的に使用できるようにする			
4	水辺の安全を普及する 団体など	小学生と保護者	水上安全講習でライフジャケットの着方や水辺の危 険、冠水時の対応などについて教える	年に2〜3回	1回に20人	水辺広場・水防セ ンター	夏	日中	・道具があること ・道具を保管しておける倉庫 ・会議室（スクリーン、プロジェクター、マイク、椅子、テーブル）	水辺の安全を普及する団体など		
5	—	—	自然観察・キャンプ体験	—	—	水辺広場	春〜秋	—	・着替えができる場所 ・川の近くに水道があること		アクティビティを行うには水位が低いのが 課題。自然観察は可能性がある	
6	その他、運動施設としての利用に関するご意見							・ナイター照明は放課後に利用するならば必ず必要 ・土のグラウンドはどここの学校にもあるので利用のニーズが低いため、 芝にしないと利用者が増えないと思う ・テニスコートにするのであれば、立地の特性上、強風が課題になるた め、土を盛って壁をつくるなど対策するべき ・スポーツをするグラウンドとして排水設備が非常に重要			立地の特性上、強風が課題になる	
7	その他ご意見							・5・10年後に気候変動でもっと暑くて運動しにくくなることを見据えて 施設整備を！古い施設にならないよう				・アイデアはたくさんあるが、水防機能によりここで できることに制限が出てくる。その前提がわからないと意 見しづらい ・希望ヶ丘と条件が似ているが、希望ヶ丘は駐車場が遠 く、使いづらいため閑散としている。差別化が必要

C班：観光・商工
アイデアカード

実現するためのアイデア（付箋）

	誰が	誰に	何を	どんな風に (頻度・年に●回)	どんな風に (1回に●人)	どこで	いつ (季節)	いつ (時間帯)	もの	ひと	仕組み・工夫	ハードル・課題	その他
1	野洲市が	子どもたちに	ロボットのプログラムと防災時のレスキューなど、自分でロボットのプログラミングをする	年に4回	1回300人くらい	野洲川	通年	—	・自転車練習（シクロクロス、マウンテンバイク→大会できるとよい）	・出身のスポーツ選手	・収益性を考えるならテニスとかよりもっとお金をうむ仕組みをつくるべき ・クラファンの活用 市民参加型！		
2		スポーツ選手	暴風・台風・豪雨体験、水害時の水の中での移動方法など	年に1〜2回	1回50〜100人くらい	スポーツエリア	通年	—					
3	建設業協会	地域住民など	災害時の体験、防災、運動会、土木研修など	年に1回	1回100〜200人くらい	土取場	通年	—		・湖南、野洲内だけでもたくさんある			
4	野洲の？？団体	市民のために	各事務所をワンフロアで集約し、連携強化することで市民活動を活発にする	年間通して	50人くらい	水防センターワンフロア	通年	—				・水防センターが狭い	
5	京セラ、オムロンなど	学生	最新テクノロジーの？？体験、3Dプリンターを常備（使ってみる、設計してみる）、スマートシティの一部実現（自動運転、AIなど）	年に12回	1回20〜30人くらい	・水防センター ・協力企業内	通年	日中					
6	各企業が	市民に	野洲万博をつくる、パビリオン、防災	年に1回	—	—	通年	—	・ミニ三上山のスペースを空けてほしい	・プログラムや協力してくれる企業	・AI活用		
7	行政、有志事業者	野洲、近隣市町村	野洲川花火大会	年に1回	1回3万人くらい	野洲川	夏	—		・協賛企業	・協賛を集める窓口		
8	野洲市全部が	地域を超えて	祭りを通じて魅力発信	年に1回	1回5万人くらい	駅に近いところで	夏	休日					
9	その他ご意見								・テニスコートいらない、ミニ三上山いらない ・テニスコートが必要ならそのバックデータが欲しい（利用者数、稼働率、どんな人が、どんな頻度で） ・テニスコートよりも別の機能（例：サッカー場・野洲高校のサッカー場がぼろぼろなので）		・子どもから高齢者、障がい者までみんなで使える、運営の心くばり、実際の声をひろう ・年間スケジュール ・実験イベント 花火大会	・温泉施設誘致で	・MIZBEステーションにあつまり、收拾がつかない。役割整理、南口整備の方向性を早急に定めないと市民の期待が ・ありきたりな施設にしてほしくない